



カンボジア王国初等教育教員養成機関での 教員養成支援及び指導教員の指導力向上支援事業



カンボジアでは、1975年から1979年のポル・ポト政権による教員をはじめとした知識人の大量虐殺や教科書を含む大量の書籍の焼却によって、教育の基盤が大きく損なわれてしまいました。その後の政権により学校の建設や

教員の増員等は着実に進められていますが、熟練教員や教材の絶対的な不足により教育の質は未だ低い水準にとどまっており、指導教員への人材育成支援が強く求められています。加えて、産業の高度化という点においても理数科分野の人材育成は極めて重要で、早急な人的支援が望まれています。

当事業では、カンボジアの初等教育教員養成機関での教員養成支援及び指導教員の指導力向上を目的として、2018年11月にコンポントム州の小学校教員養成校（PTTC）へ神戸市教員OB1名を教育アドバイザーとして派遣しました。1年間の派遣終了後も現地からの支援継続のニーズが高かったことから、引き続き派遣事業を継続しました。

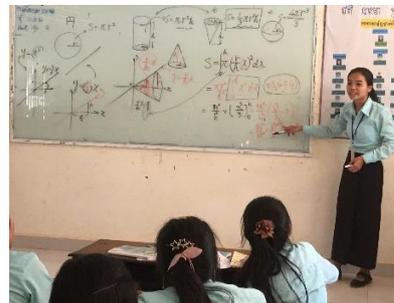
小学校教員養成校教官の能力向上を目指して



学ぶ意欲と楽しさ



アイスブレイキング



学生が教師役をする

カンボジアの小学校教員養成校教官の能力向上のために、コンポントム州小学校教員養成校（以下 PTTC）にて、「分かりやすい教え方」と「IBL(Inquiry-Based Learning, 探求型授業)」の導入を支援しました。

例えば教材不足を解消するため、身近な材料を使って実験器具を作成する方法や、授業に合わせた絵図を用意するなど授業を効果的に活性化させる方法を教授しました。またこれらに加えて、「質問を求める」「グループ学習を取り入れる」「生徒に模擬授業をさせる」「アイスブレイキングを導入する」「教師の発言を抑える」など生徒側の能動的な学習の重要性を体験してもらい、IBLにつなげる指導を行いました。

合同研修会・授業研究会の実施



指導案検討会



指導教員による教材製作準備



事前授業反省会

スバイリエン小学校教員養成校と共に合同研修会、授業研究会を実施しました。授業研究会では、IBLの幅広い導入を試み、受動的な学習から能動的な（アクティブな）学習への転換を試みました。

帰国報告会（国際理解研修・授業）の実施



派遣教育アドバイザーの一時帰国の際に帰国報告会を兼ねた小学校教員への国際理解研修、及び小学生に対する国際理解授業を実施しました。

専門家派遣と視察調査



PTTCにて、理科・算数の授業見学



小学校訪問と PTTC 卒業生の授業見学

2020年2月、派遣教育アドバイザーの活動の視察と今後の事業展開の調査のため、神戸市外国語大学の教員養成専門家と共にカンボジアを訪問しました。PTTCでは指導教官の模擬授業を見学し、派遣教育アドバイザー、校長、教員と意見交換を行いました。またPTTC卒業生が赴任している小学校の授業を見学し、卒業生がIBL手法を実際の授業にて積極的に活用しようと努めていることに大変感銘を受けました。最後にカンボジア教育省や関係機関を訪問し、今後のカンボジアでの活動について相談と協力を依頼する機会を得ました。